第55歩

パラ陸上の聖地

今年はオリンピックイヤーです。パリ２０２４オリンピック競技大会とパラリンピック競技大会が７月から９月にかけて催され、日本人選手の活躍などに日本中が大いに盛り上がりました。個人的に特に嬉しかったことは、高松市出身の日下尚選手がレスリング・グレコローマンスタイル７７kg級で香川県出身選手としては初めてとなる個人種目での金メダルを獲得したこと。それにパラリンピックでは、日本人選手が１４個という多くの金メダルを獲得したことです。特に、車いすラグビー、ゴールボールなどの人気種目での日本の金メダル獲得は、スポーツの持つ生きる力の後押しを実感し、感動を覚えました。

ところで、「パラリンピック」の語源をご存知でしょうか。元々は、両下肢麻痺者のリハビリテーションから始まったため、「Paraplegia（対麻痺者）」の「Olympic（オリンピック）」、あるいは、「Parallel（もう一つ）」の「Olympic（オリンピック）」という意味で名付けられたようです。そして、この「パラリンピック」という名称が使われ出したのが、１９６４年の東京オリンピックの時からで、日本発と言えなくもないのです。

そのパラリンピックにつながるパラスポーツの日本国内最高峰の競技大会と言われるジャパンパラ陸上競技大会が、９月２８日（土）と２９日（日）に本市の屋島レクザムフィールドで開催されました。３年ぶり２回目の開催です。屋島レクザムフィールドでは、２０１９年に日本パラ陸上競技選手権大会が、また、今年５月の神戸２０２４世界パラ陸上競技選手権大会の日本代表選手の最終調整合宿が行われたことで、日本パラ陸上競技連盟の増田明美会長は、「高松は、パラ陸上の聖地と言っても過言ではありません。」とプログラムに記されています。

ただ、前回のジャパンパラ陸上競技大会は、コロナ禍の中、無観客で行わざるを得なかったことが、残念でした。それが今回は曇り空で暑さもそれほどでもなく、多くの観客にご来場いただき、間近でパラスポーツの魅力を感じていただけました。それが何より幸いであったと思っています。